

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

2013~2014年度 国際ロータリーのテーマ
ロン D.バートン

RI第2510地区 **留萌ロータリークラブ**

会報

2013 ▶ 2014
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ **集中と調和**
会長目標

会長／中出敏彦 幹事／大嶋孝広

プログラム

- 本日
年次総会
- 次週予定

会員誕生日

11月29日 石川 健二
12月3日 対馬 健一

配偶者誕生日

11月27日 渡邊 順子
12月1日 山本由紀子

No. 2583

第20回 11月27日

出席報告

前例会

会員総数.....39名
出免会員.....8名
出免出席.....5名
基準会員出席.....21名
出席率.....76.47%

前々々

第17回 11月6日

欠席会員.....10名
内メイクアップ.....4名
修正出席率.....82.35%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

🖋️ 会長報告

1. 留萌みなとライオンズクラブのクリスマスパーティーが12月10日に開催されます。私が出席してきます。
2. 本日臨時理事会を開催し、昨年度の会計報告を承認しました。
3. 対馬健一会員が留萌商工会議所の会頭に就任しました。クラブから特別慶祝としてお祝いを差し上げます。

👤 幹事報告

- 赤平RCより12月の例会案内を受領しました。

ゲスト

元増毛天文台職員 山崎 一様

👤 委員会報告

前年度幹事

森(幹)会員

本日臨時理事会を開催し、前年度の決算報告を承認していただきました。皆様のテーブルに配付しておりますので目を通してください。

🕒 3分間情報

会員研修委員会

清水副委員長

「2013年規定審議会に関する補足説明」

1. 制定案13-69により、新世代奉仕→青少年奉仕となります。変更になったのは奉仕部門の名称のみで、現時点ではそれ以外の「新世代」を含む名称の変更はございません。各クラブにおいては名称を「青少年委員会」に変更する否かはクラブの判断に委ねられます。

2. 制定案13-58により「地区協議会」の名称が「地区研修協議会」になりました。名称が「地区研修協議会」に正式決定致しましたが、地区協議会についてのみ言及されておりますので、それ以外の変更は必要ありません。
3. 規定審議会の変更は今すぐクラブ定款・細則に反映すべきか？これについては文書作成は当面見合わせることを強く推奨致します。現在、手続要覧を作成中（日本語版）なので、一般公開された時にそれを丸ごと利用して作成していただくのがよろしいかと思えます。

ニコニコBOX

- 沖見保育園での移動例会では二ノ宮理事長に大変お世話になりました。 中出会長
- 予定していなかった商工会議所会頭に就任しました。 対馬会員
- 前年度の収支決算報告が出来ました。理事会承認ありがとうございました。 森(幹)会員

前 回	382,600円
今 回	23,000円
累 計	405,600円

プログラム

- 「ISON彗星-大彗星か分裂か」
元増毛天文台職員 山崎 一様



—大彗星と言えば—

大彗星といえば「ハレー彗星」を思い浮かべる方が多いと思いますが、1986年の接近時は望遠鏡で見える程度の明るさでした。本当に大彗

星といえる見え方をしたのは、1996年の百武彗星(C/1996 B 2)と1997年のヘール・ボップ彗星(C/1995 O 1)でしょう。

百武彗星は、明るさはそれほどではありませんでしたが尾の長さが80度にも達し、天空を彗星が横切っていくような印象でした。しかし大きく見えている期間が短かったため、一般の方々にはあまり印象が残っていないようです。

それにくらべてヘール・ボップ彗星は、尾の長さは百武彗星ほどではなかったのですがとても明るく、割合長い期間見ることができたため、人々の記憶にとどまっているようです。

彗星をバックに記念写真を撮影するなどということができたのは、それらの彗星が大彗星だったことの証なのでしょう。

— ISONとは—

国際科学光学ネットワーク(International Scientific Optical Network, ISON)の略称です。

おもにロシアやヨーロッパを中心としたプロ・アマ共同の観測チームで、ISON彗星とは、このグループが発見した彗星のことをいいます。

観測所もヨーロッパに多く、他の大陸は数カ所となっています。

— ISON彗星(C/2012 S 1)とは—

2012年9月21日(世界時)、ベラルーシのヴィタリー・ネフスキー(Vitali Nevski)とロシアのアルチョム・ノヴィチョノク(Artyom Novichonok)が、国際科学光学ネットワークの40cm反射望遠鏡で発見しました。

現在の彗星観測ではもっとも成果を上げているグループで、特に暗い彗星の観測に活躍しています。

今回は2011年9月以来1年ぶりの新彗星発見となりました。発見時の彗星は18.8等でとても暗いものでしたが、大型望遠鏡での観測で彗星と確認されました。そのときのISON彗星と太陽までの距離は約10億kmです。

ISON彗星を発見した場所は、キスロヴォ



ツク天文台 (Kislovodsk Observatory) で、発見した望遠鏡は小型のコンテナを利用した屋根の開く格納庫に設置されています。

—天文界が大(空-から)騒ぎ!—

発見された天体が、アメリカの小惑星センターから未確認天体としてインターネット上で発表されると、世界中で大きな注目を集めることになりました。

2013年秋に彗星が太陽の表面をかすめるように通り過ぎるという、特異な軌道が計算されたからです。

その後、過去の観測からこの彗星の発見前の姿が複数確認され、太陽に大接近することが現実のものになりました。

—明るくなると予想されている理由—

- 彗星の核が大きい(数km)
- 彗星が太陽表面から116万kmのところを通過(太陽直径は140万km)
- 太陽をかすめていく彗星は「サングレイザー」と呼ばれ、太陽に近づくほどその活動が活発化
- サングレイザーとしては異例の大きさ

—今後のISON彗星予想—

太陽にもっとも近づく11月29日(日本時間)前後には、明るさがマイナス等級に達する可能性があります。しかしあまりに太陽に近いと、前後数日間は地上からの観測は困難です。

太陽に接近した彗星には、もうひとつの可能性があります。通過の際に、太陽の熱で彗星本体が分裂したり崩壊したりすることがあるので

す。はたしてISON彗星はどのような運命をたどるのでしょうか。

—彗星の光度予想—

ISON彗星は2013年の春頃から増光がにぶくなり、最初の予想のような明るさは期待できないのではないかといわれはじめました。11月になってもそれは変わらなかったのですが、13日頃から急に増光し始めました。15日には双眼鏡でも見える5等級になり、17日には4等級ともいわれています。これは条件が良ければ肉眼でも見えそうな明るさです。

世界各地で撮影された彗星の画像でも、複雑で見事な尾を見せるようになっています。

—ISON彗星を見よう—

近日点(太陽にもっとも近づく位置)を過ぎた彗星は、東の空に見えてきます。高度は日ごとに高くなり、尾も長く伸びて見えやすくなるでしょう。

12月下旬には日出前の東空、日没後の西空とも見るようになるようになり、27日には地球に最接近しますが、すでに相当暗くなっているでしょう。

11月25日頃から12月2日頃までは彗星が太陽にきわめて近く、双眼鏡や望遠鏡での観測は特に注意が必要です。

大彗星になった場合(期待も込めて)、その観測には双眼鏡がもっとも適しています。望遠鏡では彗星の一部しか見えず、長い尾を楽しむには適していません。肉眼でも良いのですが、双眼鏡があればさらに楽に観測できるでしょう。

ISON彗星を撮影するには(大彗星になった場合です…)カメラと三脚があれば可能です。長時間露出と無限遠にピント合わせできるカメラが手元にあれば、撮影に挑戦してみてもいいかもしれません。

11月29日頃は彗星を見ることはできませんが、実は衛星を利用することで見ることもできるかもしれません。太陽観測用のSOHO衛星は、常時太陽周辺の画像を撮影して公開しています。ISON彗星が最も太陽に近づくときは、この

第19回 11月20日(水) 天候/雨

衛星のカメラに写るかもしれません。

URLは <http://sohowww.nascom.nasa.gov/>

－防寒対策を忘れずに－

ISON彗星は明け方に観測するチャンスが多いのですが、この時期はとても冷え込みます。見えるまでには時間がかかることも多く、想像より寒く感じるものです。防寒装備は真冬並のものがが必要です。

またカメラなどの機材も、バッテリーの電圧が低下したり動作しなくなったりすることもありますので、事前のテストなどをしておくとい良いでしょう。

大彗星が見られますように期待して、これで終わります。

